

令和5年度 教育委員会の点検・評価表



大館市教育委員会

教育総務課

点検・評価の主旨について

1 点検・評価の主旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければなりません。

本市教育委員会では、この法律の主旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民に対して明確でわかりやすい説明を行うため、本報告書を作成し議会に提出するとともに公表するものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に規定する教育委員会で職務権限とされている事務のほか、令和5年度の実務や取り組みとし、学校教育や生涯学習に関する事など、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象の範囲としています。点検・評価に当たっては、大館市の「教育大綱」に掲げる「基本理念・基本目標」に沿って、重点施策としている事務・取り組みを選定して実施します。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ること（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項）が求められていることから、学識経験者2名以上を選任し、点検・評価について個別に意見を聴取します。

4 報告書の作成

報告書の作成手順は、次のとおりです。

各課・館において、令和6年度の所管事務の点検・評価項目及び目標（重点施策点検・評価表の目標、活動内容）を作成します。（3月）

4月上旬までに、令和5年度の実施状況と見込みを取りまとめ、報告書（点検・評価）素案を作成します。

学識経験者から、報告書素案について意見を聴取し、報告書案を作成します。また、点検・評価の目標設定案について、意見を聴取します。（5月）

教育委員会会議（5月定例会）で、報告書について決議します。また、点検・評価の項目内容を報告し了承を得ます。（5月）

報告書を6月議会に提出するとともに、市ホームページで公表します。

目 次

基本理念 ふるさとに学び未来を創造できる「人財」の育成		
Ⅰ 点検・評価の主旨について		頁
1 点検・評価の主旨		1
2 点検・評価の対象		1
3 学識経験者の知見の活用		1
4 報告書の作成		1
Ⅱ 点検・評価の結果について		
基本目標		
評価項目・内容	担当課	頁
1 信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策		
1 安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る	教 育 総 務 課	3～5
2 豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		6～7
3 大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		8～9
2 ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策		
1 ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める	学 校 教 育 課 教 育 研 究 所	10～11
2 大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する		12～13
3 コミュニティ・スクールにより、地域学校協働活動の充実を図る		14～15
4 児童・生徒を教育パートナーとして、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める		16～17
5 学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		18～19
3 ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策		
1 ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	生 涯 学 習 課 中 央 公 民 館 地 区 公 民 館	20～22
2 市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		23～26
3 「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		27～32
4 高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する		33
5 「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		34～41
6 「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		42
7 伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		43～44
4 郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策		
1 大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	歴 史 文 化 課	45～46
2 郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する		47
3 文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		48～50
4 歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める		51

重点施策点検・評価表

1-1-1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課(館)
	① 長寿命化改修等による学校整備計画の推進		教育総務課
	活動内容	小中学校25校中、8割にあたる20校が建設後30年以上を経過し、学校施設の老朽化対策を早急に講じる必要があるため、平成31年3月に策定した「学校施設長寿命化計画」を基に、建築経過年数や構造体の健全度、統廃合の見込みなどを考慮し、長寿命化改修や大規模改修の対象を選定して、学校施設の整備を計画的に推進する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		建築年の古い校舎の耐力度調査の実施により、躯体の健全性が示されたため、学校整備は「改築」から「長寿命化改修」へとシフトした。このため、大規模改修や部位改修を計画的に進めるための中期(5か年)整備計画を策定し、令和3年度から新型コロナウイルス感染症対策及び環境衛生改善のため、文部科学省の交付金を活用して小中学校のトイレ洋式化工事を実施している。 令和5年度は小中学校3校のトイレ洋式化工事を実施し、和式を利用できない児童生徒の待ち時間が向上されるなど、学校内の利用環境の改善が図られた。 また、中学校2校について、屋内消火栓の改修工事や防火シャッター等改修工事を行い、安全・安心な教育環境の改善が図られた。	
	課題等	今後も、大規模改修や部位改修を計画的に進めてくため、文部科学省をはじめ各種交付金・補助金を活用し、積極的に子どもたちの教育環境の整備を進めていかなければならない。 このため、改修内容や必要経費を算出した上で、緊急度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施していく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	安心な学校生活を送るため、ハード面の環境整備を進めていることはありがたい。特に洋式トイレについては思春期の子どもたちにとってデリケートな問題であり、和式トイレが使えないことを言えずに悩んでいると聞いたことがあるため、今後も段階的に進めてもらいたい。 安全性に関わる改修工事などは優先的に実施していることで、子どもたちの安心安全な教育環境の土台になっていることに評価する。継続して対応いただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-1-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課(館)
	② 学校の維持改修・修繕などの経年劣化対策実施による学習環境の整備		教育総務課
	活動内容	施設や設備の改修・修繕が必要な箇所や、学校・PTA等から要望がある改修箇所は次年度の予算要求前に調査をし、小規模から中規模のものは改修内容の分類や必要経費を算出した上で、危険度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施する。 大規模改修や年次計画による改修工事等を計画する場合は、国の交付金を活用して実施を検討する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 老朽化に伴う改修・修繕は、計画的な施工のほか突発・緊急的な事故等にもすぐに対応し、学校運営に支障をきたさないよう適切に処置した。 しかし、次から次へと破損や故障が発生するため、即座に緊急度や優先順位を判断し、限られた予算を最大限に活用して対応した。 また、令和4年度の小中学校の要望に対する実施率は2割ほどであったが、令和5年度は3割を超え、少しずつではあるが、学校・PTA等からの要望に答えるよう努力している。	
	課題等	学校・PTA等からの要望は、老朽化が進む校舎や設備に対する改修がほとんどであり年々増加する一方だが、教育活動が止まることのないよう緊急対応や突発的な修繕を優先せざるを得ないため、要望改善の対応がまだ不十分である。 しかしながら、実施率が増加傾向にあり、着実に進めてきた成果もみられることから、引き続き、実現可能な施策の情報収集と予算の確保に努めていく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	学校やPTAの要望は年々追加されている中で、全体の3割以上が実施され、着実に対応できていることは評価できる。緊急・突発的な事案や諸問題に対する取り組みについても迅速に対応しており、子どもたちの安心に寄与している。 PTAができることは親子で取り組むなど、子どもの思い出につながっている部分もあるため、学校と連携しながら、さまざまな手法を合わせて学習環境づくりを継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-1-3

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課(館)
	③ 会計年度任用職員(校務主事等)の適正な人事管理		教育総務課
	活動内容	小中学校に配置している校務主事など、教育総務課で任用して給与の支払いやサービスに関して管理している会計年度任用職員は約50人を上回る。配置校によって勤務時間や勤務条件も多種多様で、中途退職者も多いことから、適正な人事管理により児童生徒の学校生活を支援し、より良い教育環境づくりを進める。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 教育支援員や給食調理技師等に年度途中の退職者が数名発生したが、ハローワーク等を通じて随時補充し、学校運営や教育活動に支障をきたすことなく適正に管理した。 校務主事に対して教育する必要がある安全衛生講習会(草刈り作業講習、除雪作業講習)を年2回実施することができた。また、市のクラウドファンディング事業で実施した桜剪定講習会へも参加を募り、技術の習得を図った。	
	課題等	毎年実施している安全衛生講習会など、会計年度任用職員に対して実施する必要がある教育について、今後もスキルの向上につながる教育の機会を確保して、安全・安心な教育環境づくりを進めていく。 また、校務主事に関しては、正職員(再任用職員)の退職により、会計年度任用職員が増えてきているため、今後はアウトソーシング(業務委託)を視野に検討する必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	正職員を採用しなくなったことにより、会計年度任用職員の校務主事や給食調理技師等の果たすべき役割は大きいと思う。毎年、職員の安全衛生講習会を実施することは、安全な作業・知識を身に付けてもらうことで事故防止を図ることができる。人命にも関わることなので、これからも継続をお願いする。 業務委託について課題は多いだろうが、時代に合わせ、先々を見据えながら検討を進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-2-1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課(館)
	① 社会教育施設の充実と安全性の確保		教育総務課
	活動内容	釈迦内・花岡公民館の大規模リニューアル工事を行い、屋根や壁の改修のほかトイレの水洗化及びバリアフリー化、室内の手摺り設置などを行い、各地域のコミュニティの核となる施設の良好な環境を確保する。 経年劣化による故障や破損には応急処置などで対応しながら各施設の機能維持を図り、速やかに必要な予算を確保して修繕や改修を行い、利用者の安心と安全確保を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 釈迦内・花岡公民館の大規模改修工事は1月までに完成させ、2月13日に両公民館の完成検査を経て完了した。 改修工事では、施設の利用状況に配慮し、工事箇所の調整等を十分に行いながら施工できた。バリアフリーに配慮した洋式水洗トイレ、室内の手摺やスロープの設置、屋根や外壁は張り替えや塗装を行った。 完成後は利用者から非常に高い評価をいただき地域コミュニティの核となる地区公民館の長寿命化と良好な利用環境の整備に努めた。	
	課題等	各公民館の大規模な改修工事については一段落したが、他の社会教育施設は老朽化が進んでおり設備の故障が増えている。 今後の設備の改修・整備には適切な更新計画を作成し、進めていく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	公民館の建物改修は地域の人口が減少する中で、地元の方々の意見や要望を拾い上げて計画・実施し、完成が喜ばれたことは市としてうれしいことと思う。 設備の故障等についても予算の問題もあるが、計画的に実施していただき、大人の充実した社会教育を発信する場所として、利用がますます充実していくことを期待する。	

重点施策点検・評価表

1-2-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課(館)
	② 社会教育施設の適正管理		教育総務課
	活動内容	施設の運営に直接影響を及ぼす高圧気中開閉器更新工事(上川沿公民館)、高圧ケーブル更新工事(北地区コミュニティセンター)や給水ポンプ交換工事(中央公民館)を実施する。 また、安全な施設運営のために、パッケージ型消火設備工事(上川沿公民館)や非常用照明設備取替工事(比内公民館)などを実施するほか、年間を通じて管理が必要な保守点検等を施設管理者と調整を図りながら進め、良好な施設運営と適正な施設管理を維持する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 施設運営に直接影響を及ぼす恐れのある箇所は早期に対策工事を実施し、当初から計画していた上川沿公民館の高圧気中開閉器更新工事やパッケージ型消火設備工事、北地区コミュニティセンターの高圧ケーブル更新工事などは予定どおり完成させた。 また、突発的な設備の故障や不具合には、施設管理者と連携しながら速やかに対応し、利用者の活動に支障をきたさないよう維持管理に努めた。	
	課題等	建物の老朽化に伴い設備の故障が多くなっている。保有している53施設のうち約6割が築30年を超えている現状から、故障による施設の利用停止とならないよう更新計画を作成し、進めていく必要がある。 また、「大館市社会教育施設長寿命化計画」に基づき、施設所管課の生涯学習課や中央公民館、歴史文化課と連携し、施設の集約化及び存続施設の改修について計画的に実施する整備計画を策定しなければならない。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	管理する施設の多さと、突発的な故障等に対応するため、計画的に進めていくことが大切だと思う。計画があることによって見えてくるものがあることから、地域の教育のために利用者が困らないよう取り組んでいただきたい。 施設の集約化については、利用者の窮屈さ、不便さがないように活用状況を見極めながら進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-3-1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		担当課(館)
	① 教育委員会施策の情報発信の強化		教育総務課
	活動内容	毎月開催する教育委員会会議では、実施する施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。 教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。 教育委員会活動の透明性を図るため、ホームページや定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 教育委員会会議及び総合教育会議の議事録、教育委員会事務事業の点検・評価結果など大館の教育が取り組む活動内容について理解を深めていただくため、市ホームページで公表した。また、大館まなび大学と連携して市内各学校の特色についても情報発信を行った。	
	課題等	大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、市ホームページを活用しているが、日常生活の中における情報発信媒体の多様化に伴い、SNS等のアプリケーションサービスを活用した発信手段も検討する。 また、市民への情報発信として地元マスコミ報道が有効であるため、積極的に報道機関を活用していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	教育ツーリズム等により、全国から大館市へ視察に訪れている教育関係者が多いことは、日頃からさまざまな情報発信をされてきた成果だと思う。 新聞報道は、市の教育活動を市民に知っていただく方法として有効であるが、ホームページ等については手軽に全国へアピールできるツールであるため、多くの取り組みを透明性をもって情報発信に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-3-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		担当課(館)
	② 東北六県市町村教育委員会連合会定期総会及び教育委員・教育長研修会の開催時における「おおだて型授業」の発信		教育総務課
	活動内容	東北六県の教育委員・教育長が一同に集う「東北六県市町村教育委員会連合会」の定期総会及び研修会が、7月6日と7日に本市で初の開催となる。初日には市内の小・中学校25校すべての公開授業を実施し、おおだて型授業(響学)を具現化する絶好の機会と捉え、東北地方全体に情報を発信する。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 「東北六県市町村教育委員会連合会」の第71回定期総会及び研修会が7月6日と7日の2日間、プラザ杉の子とほくしか鹿鳴ホールを会場に開催され、127自治体の教育委員及び教育長、関係者ら538名の方々が参加された。 7月6日は東北六県市町村教育委員会連合会の定期総会が開催され、それに合わせて市内の小中学校25校全てで公開授業を実施し、231名の方々に本市の「おおだて型授業(響学)」による共感的共働的学び合いや対話的学び合いを実感していただいた。 7月7日は研修会がほくしか鹿鳴ホールで開催され、「教育による消滅可能性都市からの脱却」と題して高橋教育長が講演を行い、参加者から盛大な拍手が送られるとともに本市の教育に対して非常に高い評価をいただいた。 また、ホールロビーでは、市内小学校の児童らが作ったひまわり油やドレッシングの販売を行ったところ、行列ができるほどの盛況ぶりで大館市のふるさとキャリア教育を大いにPRできた。	
	課題等	令和6年11月2日には、「全国小学校キャリア教育研究大会」が本市で開催されることが決定している。 本市での開催は2度目であり、教育研究所が担当となるが、今回の「東北六県市町村教育委員会連合会の定期総会及び研修会」の成功を踏まえ、教育研究所と協力体制を構築して万全の態勢で全国の教育関係者をお迎えし、本市の「ふるさとキャリア教育」や「おおだて型授業(響学)」を発信していく。	取組の方向性 ☐ 継続 ☐ 廃止検討 ☒ 単年度
	学識経験者等意見	これまで準備した関係者の努力の成果により、このような大きいイベントで大館の教育が発信されたことは大変すばらしく、評価したい。 教育長が進めてきた、ふるさとキャリア教育で育った子どもたちが、大人になって自分を見つめ直し、ふるさとを思い出させ、ふるさとの良さに気付かせるのが「ふるさとキャリア教育」である。地元に戻ってくることだけが還元ではないし、都会でふるさとの資源や人材を生かすことで多様なつながりが生まれると思う。 今後の大きなイベントについても、大館らしい教育の発信に期待する。	

重点施策点検・評価表

2-1-1

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める		担当課(館)
	① SDGsの視点からの価値付けによるふるさとキャリア教育の深化		学校教育課 教育研究所
	活動内容	ふるさとキャリア教育12年目を迎え、これまでの各校の実践や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取組を、SDGsの視点から捉え直し、価値づけていくことでふるさとキャリア教育や各校の百花繚乱作戦を一層充実させる。子どもや教職員、保護者や地域も活動の意義や目的を再確認することで、これからの「未来大館市民」育成の教育的効果を高めていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 令和5年度の子どもハローワーク参加人数は、のべ約1,150人となり、昨年度より550人増加した。きりたんぽまつり等大型イベントでのボランティアを始め、企業、店舗等の65か所の施設や事業所の協力を得て本年度の募集件数も127件と増加傾向にある(きりたんぽまつりボランティアの参加者は小学生32名、中学生156名、高校生60名、リピーターもいる。)。ハローワークに参加した児童から「職人の技術のすごさや思いの深さを感じた」、「仕事をするためには計画と手順が大切になる」、「人と人との関係性を学んだ」などの声が聞かれた。県外の自治体からの問い合わせや視察もあった。また、子どもサミットでは各校でSDGsの視点から特色あるさまざまな取り組みや活動を紹介ポスターにまとめ、本庁の議場で行われた代表会議において意見交流した。市議会議員や保護者もその様子を参観し、感心していた。 秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙(小4～中2の平均)においても、未来大館市民につながる項目において全て県平均を上回っている(県を100とした市の指数)。 1. 自分にはよいところがある……………(102.6)※R4 102.7 2. 将来の夢や目標をもっている……………(102.8)※R4 101.1 3. 人の役に立つ人間になりたいと思う……………(101.5)※R4 100.9 4. 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う……………(104.5)※R4 103.4	
	課題等	子どもハローワークの申込者が学校によって差があるため、教職員夏季研修会で研究所からのコマーシャルタイムや体験活動を設けるなどし、教職員に周知したい。子どもサミットでは持続可能な大館の未来のためにどんな『ロス削減活動』ができるのか、各校の児童生徒が自分ごととして捉えられるように工夫していきたい。子どもサミット運営委員会で市環境課とミーティングし、どのように各校に周知していくかを運営委員に任せてみる。また、今後も議場で「子どもサミット代表会議」を行い、大館市民に向けて子どもたちの活動をさらに広めたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさとキャリア教育は年月を要したけれども、厚みのある教育を大館で展開している印象を受けている。色々な取り組みを行い、良い評価も出ているのでこれからもやり方次第では非常に夢のある事業が展開出来るのではと感じている。「成功」だけがプラスではない、マイナスになった部分からも学ぶべきことが多くあるのでこれからも非常に楽しみな取り組みである。未来大館市民(子ども)を育てていくのは学校以外の理解があるからこそ可能と思う。新しいことを取り上げ、実行していくには経費が付随していくが、その方面でも市教委には難儀をかけている。	

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める		担当課（館）
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実		学校教育課 教育研究所
	活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。不登校対策については、毎月実施している「欠席調査」において、年度の切り替わりにおける情報の引継ぎを確実にを行い、欠席状況の実態を正確に把握するとともに、前年度の支援体制が生きる対応の在り方を模索しながら、学校への助言をこまめに行う。	
	点検評価	☐ 目標を上回る （達成率100％超） ☒ 目標どおり （95～100％） ☐ 目標をやや下回る （80～94％） ☐ 目標を大幅に下回る （80％未満） 不登校及び不登校傾向の児童生徒数は増加傾向にあるが、成果点としては関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが児童生徒の特性の理解、具体的な支援策、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。 今年度は、不登校及び不登校傾向の児童生徒及び保護者が悩みを抱え孤立することなく、必要とする情報や支援を得られるように市内の相談機関等で扱っている活動内容について、「子ども、保護者、家庭サポート窓口」として取りまとめ全家庭に周知した。学校訪問等を通して周知の徹底を図り、関係機関と連携したさまざまな問題への対応や保護者に対する相談活動の実施に努めた。また、市教育研究会学校保健部会が中心となりメディアコントロール力向上に向けた活動が進められている。保護者への啓発活動とともに同じ小学校区にある就学前施設、小学校、中学校で連携しながら、子どもたち自身がメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう、さまざまな取り組みを行っている。	
	課題等	不登校の原因はさまざま多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。さらに、不登校児童生徒の中にはメディア依存やそれに伴う昼夜逆転の生活の問題を抱える割合が増えている。 今後も各関係機関と不登校の未然防止の取り組みや支援の在り方について連携していくとともに、一人一人の児童生徒に応じた各校における支援体制づくりと組織的対応が迅速に進むよう働きかけをしていく。	
学識経験者等意見	「いじめ」よりも「不登校」が問題となっていることは理解している。また、さまざまな対策を講じていることも重々承知している。子どもたちの就学前教育を重視していかなければならないと感じている。例えば、動画を視聴させながら食事をする際、子どもは静かになると思うが、その時子どもが受ける栄養は食そのものと精神的な食の2種類あり、精神的な食に対し発育は大きく影響してくる。		
	子育て講話については一方的な講話だけでなく、講話時間は短く、その後、身近な目の前にある問題について話し合いをするようにしたほうがよい（一人一人抱えている問題が違うため）。当事者にとっては貴重な試みとなるに違いない。		

重点施策点検・評価表

2-2-1

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する		担当課(館)
	① 教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現		学校教育課 教育研究所
	活動内容	ふるさとキャリア教育が、掲げる理念の先見性、生み出す活動のクオリティ、織り成す組織のアクティビティなど、公教育における先駆的、先覚的、先導的教育実践を追求し、教育ツーリズムを通して、参集を希望する志ある全国の教員が、あるべき教育の姿を語り合う場を設定する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		令和5年度の教育ツーリズムによる訪問要請の受け入れ実績は、実人数がおおよそ1,200人、交流都道府県も20を超えている。これまで主流であった区市町村教育委員会や県教育委員会による視察等研修依頼に加え、校長会や大学からの依頼事例が見られるようになってきたことが今年度の特徴である。また、本市が7月に東北市町村教育委員会連合会の開催都市となったことから、東北全市町村の教育委員の方々に市内全小中学校の授業を公開することができた。大館ふるさとキャリア教育の実際を子どもの姿として東北全体に示すことができた意義は極めて大きい。これら東北地区市町村教育委員の方々や校長会等への公開後、さらに深い研修を目的として個別の視察依頼を受ける場合もあり、各教育関係者が追い求める教育の有り様を本市のふるさとキャリア教育から見つけ出そうとする情熱あふれる教員の来訪が続いている。	
	課題等	視察等依頼者の要望に応え、研修目的を達成できるように体制を整えることは必要だが、外部の教育関係者等の視察を本市各校教員、各児童生徒の成長に結びつけることが私たちの本質的な目的である。その観点から視察者及び団体の増加に対しては、全ての小中学校を可能な限り主体的な受け入れ姿勢をもって視察対象に導く戦略が必要である。学校現場の風潮は外部者の視察に対して「気構える」傾向にあり、「日常の学校風景を気軽に」という空気感に改新することが重要と認識している。また、各校の意欲的な受け入れ姿勢を実現するため「各校の手上げ方式」を用いて視察校を振り分けたいと考えているが、視察希望日の直前に依頼してくる団体も多く見通しを持った振り分けがしにくい構図となっている。	取組の方向性
			☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	他団体と比べ、大館の教育研修は一步先を行っていると感じる。市内25校、授業の型は全て違う。教職員の年齢に寄るところが大きい、そういう差があるところでの学校経営である。その中で経営戦略として、自問自答する力を外部の力でやっていくことが重要と考える。これまでは市の職員、またはその他の近隣の力で切磋琢磨であったが、東北に限らず他県まで広がっている現状なので、ぜひ続けてほしい。一市民として実践発表会を視聴したが、さまざまな発想を持っていて大館の授業は力があるのは間違いないと思う。	

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する	担当課(館)
	② ふるさとの価値を多面的かつ広域的に捉える機会の充実	学校教育課 教育研究所
	活動内容 子どもサミットや海外研修等の活動を通して、ふるさとキャリア教育による学びを通じて成長した児童生徒が、全国や世界の視点からふるさと大館を見つめることで、豊かな未来についての想像力や思考力、社会に働きかける実践力などを伸長するとともに、その姿を積極的に地域に発信する。	
	点検評価 ☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 子どもサミットの運営に関しては、昨年度、新庁舎議場での開催により多くの市議会議員の皆さんにも参観いただき、子どもサミットに対する一般の認知が格段に広がったのに加え、今年度は子どもサミットを単立した先輩(慶應大学生)の講和をサミット委員が聴講する場面を設定できた。身近な先輩の成長の姿は児童生徒のキャリア構想の形成に大きな刺激を与えるものであり、「学校生活の中核を担うリーダー層の能力を一層引き上げる」という点で好循環の幕開けであり、子どもサミットの存在やその価値が次の段階に入ったといえる。 海外研修でも、ニュージーランドの生活について事前に学習する場面において、これまでは海外生活経験者からの講和を実施していたが、今年度からその役を昨年度海外研修を経験した中学校3年生に依頼した。この場面では質疑応答も極めて活発で予定した時間を大幅に超過するほどだった。これまで事業そのものは複数年継続しているものの、参加生徒の立場から見れば実施年度限りの単年度イベントだったものが、始めて年度ごとのつながりを生み出すことができた。また、今年度は他部署の事業ではあるものの、中学生に対して日本を代表する大企業の視察研修を実施した。言葉を変えるとスケールの極めて大きな「職場体験学習」である。これから多様なグローバル社会を生きる子どもたちに、世界的な視点に立った考え方は必要不可欠な要素であり、そのきっかけづくりとしてきわめて効果的な事業である。	
	課題等 各事業に参加した児童生徒の発言や振る舞い等を見ると、これら事業による児童生徒の成長は著しく、効果は絶大であると認識している。廃止を検討する理由は皆無である。参加対象として各校の児童会、生徒会のリーダーを担う児童生徒が参加することを想定しているが、同一の生徒が複数の事業に参加している実態がある。子どもサミット以外の事業については生徒数の減少によって、今後、特定の学校に参加者が偏ることも予想される。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見 子ども育成事業全般、大館市はやはり進んでと思う。事業というものはマンネリ化するとリスクを伴うものであるが、新しいものに息を吹きかけながら取り組んでいる姿勢を評価したい。市教委というバックボーンがしっかりしているので、子どもたちは、例えば生徒会のリーダーではなくその他の生徒だったとしても、成長する、自分たちを大事にすることができるなど、市のふるさとキャリア教育全般にはその要素が盛り込まれている。市教委も手法を変えいろいろなことをやってくれているようなので、できる限り続けて欲しい。継続は難しい点もあると思うが、将来、それがどのように還元されるのか非常に楽しみでもある。	

重点施策点検・評価表

2-3-1

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
3	コミュニティ・スクールにより、地域学校協働活動の充実を図る		担当課(館)
	① ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の展開		学校教育課 教育研究所
	活動内容	ふるさとキャリア教育夢事業、ふるさとキャリア教育ステップアップ事業を活用して、各校の百花繚乱作戦をより充実・発展させ、地域全体を巻き込んだ教育活動にしていく。地域の学習材等の教育資源を活用した授業や起業体験活動の開発を支援、奨励し拡充していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		児童・生徒の自立と気概を備えた人材を育成するため、創意工夫による特色ある教育活動等の事業を実施する市立小中学校に対し、その活動に要する経費を支援する「ふるさとキャリア教育ステップアップ事業」に4校が応募した。各校の事業計画は甲乙つけ難く、活動内容がすばらしかったので4校とも採択された。 ①南中学校 ハチ公生誕100年プロジェクト ②桂城小学校 桂城 城下町かるたをつくろう ③扇田小学校 届けよう 笑顔と幸せ 「山コチンチョコ灯籠パレード」など ④東館小学校 郷土芸能「独鈷ばやし」継承計画 4校は、地域のつながりと歴史や文化を大切に地域住民を巻き込んだ事業を展開した。例えば、南中学校ではハチ公生誕100年を機に秋田犬やハチにまつわる講話を聴いたり、「ハチ公の里クリアファイル」、「ハチ公の里登り旗」の製作など、生徒は「ハチ公の里」の住民としての見識が深まった。また、桂城小学校では「桂城 城下町かるた」の作成を通して城下町の理解を深め、ふるさとについての自信と誇りが高まった。	
課題等	「ふるさとキャリア教育ステップアップ事業」について、校長会や教頭会でも事業を説明し、これまで活用していない学校(未実施8校)には、過去6年間の事業や主な支出をまとめた採択校一覧を配付し、積極的な活用を促す。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見	ステップアップ事業について、通常はこのような事業はないと思うが、予算的な裏付けもしっかりしていてとても感銘を受けた。以前の職場で新しいものを作るのではなく、既にあるものを子どもたちの力だけで良くしようとペンキの塗り替えを行ったことがあるが、自分は完成形は見られなかったが、大事な事業だと認識した。学校をより良くしようという市教委のバックアップは力強い。OBとして一市民としてお礼を申し上げる。		

重点施策点検・評価表

2-3-2

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
3	コミュニティ・スクールにより、地域学校協働活動の充実を図る		担当課(館)
	② 地域に開かれた教育活動の取り組みによる元気の発信と地域貢献		学校教育課 教育研究所
	活動内容	大館未来型コミュニティ・スクールの構築と推進に向け、各校がこれまで築いてきた、ふるさとキャリア教育の連携体制をさらに深化させ、これまで以上に学校と保護者や地域住民が一体となって「地域に開かれた・地域とともに歩む学校」を目指す。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		学校と保護者や地域住民がともに意見を出し合い、学校運営に反映させることで、子どもたちに豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを協働して進めるため、令和5年度から市内全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定した。また、各校の第1回学校運営協議会に教育委員会職員が出席し、コミュニティ・スクールのメリットや魅力を伝えとともに運営協議会委員の役割などについて説明した。 (学校運営協議会の設置状況:小中単独22協議会、小中合同協議会3協議会(6校)) この指定に当たり、各校の保護者や地域住民など、延べ257人を学校運営協議会委員に任命した。	
	課題等	市内の小中学校では、コミュニティ・スクール導入前から、すでに地域との連携がうまくいっているが、今後、学校支援活動だけでなく、地域の特性を生かした学校づくりや課題解決に向けた取り組みを進める必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	大館市は、地域との連携がある程度構築できてあったと思うのでスムーズに実施できたと思う。地域とのつながりがベースとなる国庫事業を探し当て、取り上げて、実施していく市教委の学校(子どもたち)への思いが伝わってくる。実施できる事業は活用して行って欲しい。全ては子どもの成長のため。何を実施するにも経費というものが必要となるが、正直なところ現場(学校)ではあまり考えられないものなので、学校にアピールしながら進めて行ってほしい。「学校」というものは勉強を教えることができる人を地域へ招いて始まったもの。現代では形が変わってきたが、事業は継続して欲しい。	

重点施策点検・評価表

2-4-1

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
4	児童・生徒を教育パートナーとして、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める。		担当課(館)
	① 児童・生徒主体で進行・展開していく「おおだて型授業(響学)」の推進		学校教育課 教育研究所
	活動内容	「おおだて型授業＝共感的・協働的学び合い(響学)」の質を更に高めるため、「教育パートナー化」を推進する。児童・生徒が学びの主体となり、違いや良さを認め合いながら進行・展開していく授業を目指し、学校訪問等を通して各校に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会で発行する「SHI・N・KA」に、第0次学力向上に関する提言についての各校の効果的な実践をまとめ、全教職員に周知を図る。全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の児童生徒質問紙の「おおだて型学力」に係る項目について、データの分析を継続していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 第0次学力向上に関する提言「共感的・協働的学び合い(響学)を通して、一人一人が自らの考えを創造し、学びを深める児童生徒の育成」がスタートして2年目。教師がファシリテーターとして児童生徒一人一人のよい点や可能性を引き出し、児童生徒が主体となり互いの考えを響かせ、よりよい学びを生み出していく「おおだて型授業」について、市教委学校訪問において電子黒板を使って周知し、授業の具体的な場面を基に指導・助言を行い浸透を図った。おおだて型学力推進委員会のメンバーが発行している「SHI・N・KA」第72～78号からは、2年目の成果として児童生徒同士が教育パートナーとしてつながりを持ちながら、自分の考えを広めたり深めたりする姿に成長がみられることが分かった。 秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙(小4～中2の平均)においても、おおだて型授業につながる項目において県平均を上回っている。(県を100とした市の指数) 1. 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う……(102.6) ※R4 101.1 2. 普段の授業では、ともだちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う……(101.6) ※R4 101.6 教科について小学校は10項目(11項目中)、中学校は3項目(10項目中)が県平均を上回り、中学校は県との差が徐々に縮まってきている。	
	課題等	秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙のおおだて型授業につながる項目において小4～中2の平均で見ると県を上回っているものの、学年別で見ると中2が県をやや下回っている状況にある。第0次学力向上に関する提言にある通り、他者の多様な考えに触れることが自分の考えを広げたり深めたりする上で役に立つことを児童・生徒が自覚できるよう、教科等の特質に応じて学び合いの場面を適切に設定するよう指導、支援していきたい。	取組の方向性
学識経験者等意見	2-1-1の説明で大館の子どもたちは夢があるという数値が高かったが、ある新聞では現代の若者の3割くらいは学力はあるが夢はないという記事を目にした。例えば発展途上国のインドなどは夢があるが実践できないというリスクを負っている。これまでのさまざまなふるさとキャリア教育の施策で培ってきたもの(品格など)が熟していると感じるので、大館の子どもたちは数値だけでは捉えられない学力があると思う。		

重点施策点検・評価表

2-4-2

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
4	児童・生徒を教育パートナーとして、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める。		担当課(館)
	② 「おおだて型授業(響学)」の実効性を高めるツールとしてICTを効果的に活用		学校教育課 教育研究所
	活動内容	全小中学校に整備された一人一台タブレット、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等を活用して「共感的・協働的な学び合い」や「一人たりとも置き去りにしない授業」の実現に向けて、各校のICT推進委員を中心に活用を更に進める。秋田県教育委員会委嘱の「ICTを活用した授業改善支援事業」のモデル校となっている城南小学校での授業公開や、県内外に広く発信する「オンラインミーティング」において、「おおだて型授業(響学)」の実効性を高めるツール＝ICTの効果的な活用を市内の各小中学校に広げる。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) モデル校である城南小の実践を市内25校に横展開を図るため、ICT活用推進委員会や研究主任会、採用3～5年目の教員対象の授業力向上支援研修会と連携し、授業参観や研修会の機会を設定した。1月に行われた大館市教職員研究実践発表会ではモデル校である城南小学校の3年間の取り組みについて発表があり、70名の教職員が参加した。参加者からICTの活用について前向きな感想が多数寄せられた。市内25校でのICT活用支援のため、市教委にICT支援員を1名配置し、城南小での実践を基に各校の要望に合わせて実際に出向いて支援にあたっている。また、市全体で90台の電子黒板、学習支援ソフトを導入し、市内25校で活用することでモデル校で学んだことが生かされるよう後押しした。 秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙(小4～中2の平均)においてもICTに関わる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指数) 1. 普段の授業では、コンピュータなどのICT機器をどのくらい使用していますか・・・(97. 1)※R4 86. 6 2. あなたは学校でコンピュータなどのICT機器を他のともだちと意見を交換したり調べたりするため、どのくらい使用していますか・・・(95. 8)※R4 76. 5	
	課題等	各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用にちゅうちょしている学校を、重点的に支援する。 校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や、各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるように蓄積していく。また、学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的につながる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。	
	学識経験者等意見	大規模な予算であったと想像するし、得意・不得意な教員もいると思うが、ぜひ各小中学校に活用してもらいたい。デジタル化は素晴らしいことだが、アナログにも捨てがたい大事な側面があるため、デジタル化に偏らないように工夫してほしい。複式学級のオンライン化は不登校児童生徒に有効だし、対応できる時代がやがてやってくるかと思う。電子黒板など購入したものを無駄なく有効的に活用して行って欲しい。	

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		担当課(館)
	① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築		学校教育課 教育研究所
	活動内容	新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 教育課程の計画・報告の点検、学校訪問等での確認により小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。小学校英語教育推進委員会を年3回開催し、小学校外国語活動・外国語と中学校の英語科との円滑な接続に向けて、連携を意識したCAN－DOリスト、教科書改訂に準拠した年間指導計画の作成、各種調査結果の分析を行った。秋田県学習状況調査において、中学校1年生が県平均となっており、児童生徒質問紙でも「外国語の勉強が好きだ」の割合が、小学校4年生から中学校1年生まで昨年度より向上しており、課題となっていた小学校4年生から5年生への教科化の壁(小学校5年生111.3)、中学校への壁(中学校1年生111.9)が解消されている。 英語教育実施状況調査からも小中の連携が大幅に進んだことが分かった。全小学校の全授業に外国語活動支援員を派遣しており、コミュニケーション力を高めるとともに、「読む」「書く」にも対応する授業に努めている。また、英語教育推進アドバイザーによる幼児への指導の要請が増えた。(12園)小学校1・2年生の英語に親しむ活動、複式学級のカリキュラムを作成し、アドバイザー以外にも、教員や支援員が指導できる体制とした。	
		課題等	全小中学校にデジタル教科書が導入されることから、電子黒板、タブレットパソコンを効果的に活用する授業を研究実践していく。 学級担任、外国語活動支援員が改定した教科書、デジタル教科書の活用に慣れ、効果的な活用を図るための研修機会を設ける。 小学校では、アルファベットを「聞き取る」「書く」の習熟度を高めることで、中学校の英語力につなげていく。
学識経験者等意見	結果が伴っていると見受けられる。英語教育推進アドバイザーもフル活動のようだし、市を挙げて英語教育に力を入れているようで良いと思う。外国語活動支援員数が以前と比べて増えている。至れり尽くせりである。有効に使わないと(実績を上げないと)人数が減られる可能性があるのでは、そうならないようお願いしたいと思う。遊びながら楽しみながら英語に親しみ、英語嫌いにならないようぜひ続けていって欲しい。		

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		担当課(館)
	② 学校と行政の連携により個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備		学校教育課 教育研究所
	活動内容	全校のエアコン稼働、コロナウイルス感染症防止のための備品等のスムーズな活用に向けての条件整備を進める。GIGAスクールについては、家庭でのオンライン授業の可能性を調査研究する。 教職員の働き方改革を推進するため、校務支援システムによる事務量の軽減、出退勤時間の管理、人的な資源活用(部活動指導員、学校サポーター等)の効果を検証しながら改善策を検討する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 児童生徒の安全安心な学習環境を確保し、教育活動を着実に継続するため各校で感染症対策を徹底する上で必要となる消毒液や保健衛生用品等の整備等に必要な経費を支援した。結果として新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖などは、小学校で1件のみとなった。 GIGAスクール構想による一人一台タブレット端末の持ち帰りについて、ICTを活用した授業改善支援事業の指定校となっている城南小学校で試験的に6年生の持ち帰りを実施した。今後、全校・全学年での実施に向けた検討をする。 教職員の働き方改革に関しては、校務支援システムの運用により小中学校とも指導要録、通知表などのシステム化や出退勤管理が図られ、事務量の軽減等につながっている。また、中学校部活動指導員6名(運動部)を雇用し、教職員の負担軽減を図った。さらに休日の部活動については地域部活動推進事業を活用し、運動部活動は4校で5部活動、文化部活動(吹奏楽部)は9校で関連事業を実施した。	
	課題等	令和2年度GIGAスクール構想により整備したタブレット端末の更新を令和7年度中に実施するため、関係機関との連携・情報交換等を早期に進める。 中学校部活動の地域移行については、現状の課題把握と課題解決に向けた取り組みを各校及び各競技団体などの実情に応じて進める必要がある。	取組の方向性 ☐ 継続 ☐ 廃止検討 ☒ 単年度
	学識経験者等意見	教職員の職場環境改善、負担軽減など非常にありがたいことであり、やってみなければわからないことだが、ひとつの問題を解決しようとして、新たな問題が発生する。例えばそのための事務量の増、子どもたちに事故があった場合の補償などが心配な面もある。特に保護者は自身の子どものしか考えない傾向にある。これら現状を変える施策は必要と思われるので、問題が発生したら、その都度真摯に解決に向けて取り組んでいくよりないと思う。地域部活動推進事業については大館の場合は新しい話題ではなく、その面でも大館の教育現場は進んでいると考える。難儀な課題であるが、ぜひお願いしたい。	

重点施策点検・評価表

3-1-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課(館)
	① 達人講座の実施		生涯学習課
	活動内容	地域のサークル等の講師(達人)が、小中学生(親子含む)を対象にボランティアで講座を開設し、21講座を実施する。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) コロナの影響で活動を自粛していた先生方の講座(梅ジュースを作ろう、花育体験講座)が復活したほか、今年度新たに4講座(卓球体験、走り方教室、スイーツを作ろう!、フラワーアレンジ体験)を加え26講座実施した。 前年度までは文化系統の講座が多く、スポーツ系統が1講座(少林寺拳法)のみであったが、今年度は2講座増やすことができた。 今後もスポーツ系統のみならず新たな分野の講座を開催できるよう努めている。 ・令和3年度:25講座(申込者数437人、前年度より52%増) ・令和4年度:22講座(申込者数442人、前年度より 1%増) ・令和5年度:26講座(申込者数527人、前年度より19%増)	
	課題等	後期ではスポーツ系統の講座を開催することができなかったため、来年度、現在講師を務めてくださっている先生方に交渉するほか、新たに冬に講座を開講できる講師の先生を探すようにしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	目標を上回る人数で非常に良い事業だと思う。 コロナが明けて、ますます活性化すると思われる中で、冬季間の講座開設の検討も含めて、さらなる努力に期待する。	

重点施策点検・評価表

3-1-2

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	② 人材リスト「おおだて人財名簿」及び「大館市出前講座」の充実と活用	生涯学習課
	活動内容 「大館人財名簿」: 高等教育機関(大学、短大)や学校ボランティア、公民館等から人材を発掘し、特技や知識を持つ市民を「人財」として募集・登録すると共に登録情報の更新を行い、学校や公民館などさまざまな学習活動の場で活用を促す環境の整備を図る。小中学校25校、社会教育施設等17か所に名簿を配置すると共に、市ホームページも更新する。(活動報告書を提出していただき、実績を把握する。) 「大館市出前講座」: 市民の自主的な学習活動を支援するため、市の制度や事業等について市職員が出向いて説明を行う「出前講座(65講座)」を実施し、利用件数150件、受講者数7,000人(延べ)を目指す。	
	点検評価 ☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 【人財名簿】人財名簿への新規登録は1件、活動実績は0件だった。 令和4年度実績 登録50人 18団体 令和5年度実績 登録31人 14団体 登録人数、団体数は、登録状況を再確認したところ、亡くなっている方や高齢化による活動の休止などにより減少となった。差し替え名簿を配置先へ送付するとともに、5月19日に市ホームページを更新した。ホームページだけでなく広報8月号に掲載し、利用促進を図った。 【出前講座】新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、昨年度よりも利用件数が増加した。結果としては258件、7,541人の受講となった。 メニュー講座として、「救急や防災に関する講座」、「ボッチャ体験」、「木育を体験しよう」の申し込みが多かった。 メニューにないものの担当課が受け入れた特別メニューの講座としては、「おひなさま展について」、「認知症・フレイル予防について」の2件であった。	
	課題等 【人財名簿】より広い周知をして登録件数増加や利活用の促進を図っていききたい。名簿の内容は随時チェックしながら更新し、使いやすさを維持していく。利用実績を明確にしていくため、仕組みづくりが課題となっている。 【出前講座】メニュー65講座のうち利用のない講座もあるので、市民ニーズにあったメニューの見直しとより一層の周知をしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見 コロナが明けて、活動が増加傾向になってきている。人材名簿を整理したのは良かったと思う。 4年度、5年度の登録人数が下がっているが、亡くなった方や休止状態にある方などの把握をしたためだと思われる。 今後もニーズを把握し、この事業が充実、発展するよう期待している。	

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課(館)
	③ 公民館事業への青少年の参加促進		中央公民館
	活動内容	各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全7回延べ70人、ラジオ体操開始・修了大会10団体100人他を予定。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	課題等	新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行したものの、感染対策などを講じて事業をできるだけ実施するというスタンスで取り組んだ。休日や夏・冬休みの小中学生を対象とした事業は、「将棋・囲碁教室」、「新春書初め」などのほか、地区公民館では「星空観望会」、「サケの放流事業」、「ひまわり畑で撮影会」など特色ある事業に取り組んだ。事業の中止はほとんどなく実施できた。「わんぱくスクール 全8回、延べ61人」、「囲碁、将棋教室 各3日、延べ56人」、「ラジオ体操開始大会 9団体、約100人」、「ラジオ体操修了大会を大館市ハチ公生誕100年記念協賛事業(みんな元気にラジオ体操ワンツー・ワンツー) と共同開催 7団体、約140人」 今後も、小中学生が興味を持つようなイベントや活動内容を大学や企業等の協力を得ながら、新たな取り組みを企画する。「わんぱくスクール」や「キッズカレッジ」、「たしろ学舎」などの事業で実施した複数館合同での事業実施は、今後さらに必要となる。子どもにとって身近な存在の公民館を目指す。	
	学識経験者等意見	児童数の減少等、単独開催ではなかなか参加者も集まりにくくなっていることを考えると、複数館合同での事業はこれからも継続して開催していくことは必要だと思う。 事業を開催する中で、参加人数は確かに大事だが、親子参加型など青少年が公民館に足を運びたくするような事業を期待している。	
		取組の方向性	☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度

重点施策点検・評価表

3-2-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	① 生涯学習推進体制の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習に関する市民の意見・要望を反映させるため、生涯学習推進協議会において協議すると共に、地域における学習活動を奨励するため、生涯学習奨励員の自己研鑽と活動の充実を図る。社会教育主事の資格取得のための環境整備を行い、生涯学習推進体制へつなげる。(幹事会及び協議会を各年1回開催)	
	点検評価	☐ 目標を上回る ☒ 目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満) 生涯学習推進協議会では、7月に幹事会(書面協議)、8月24日に協議会を開催した。令和5年度生涯学習推進計画、社会教育推進計画を案件とし、各委員からさまざまな意見や助言等が出された。今後、各種生涯学習事業の展開・改善に役立てていく。 また、生涯学習奨励員については、生涯学習フェスティバルへの参加及び協力や県及び北鹿地区の総会、各種研修会への参加などの活動を行った。	
	課題等	生涯学習推進本部としてさらなる庁内連携を進めるとともに、今年度の協議会での委員の意見を反映できるようにしていきたい。	取組の方向性
	学識経験者等意見	生涯学習奨励委員は各地区公民館、中央公民館などから推薦され、生涯学習フェスティバルへの参加及び協力、各種研修会への参加など地区を代表して行事に参加していただいている。	
	奨励員21人の方々のやりがいである。生き甲斐や、やり甲斐を追求しながら取り組んでほしい。		

重点施策点検・評価表

3-2-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	② 大館版リカレント教育事業の展開		生涯学習課
	活動内容	人生100年時代に対応して社会人の学び直しの機会を創出し、市民の学び直しを支援する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		働く学部ではオリジナル講座を64回、全体として延べ820人が受講した。今年度も本事業へ企業版ふるさと納税による寄附があったことから特別講座を開催したほか、大学連携講座、女性活躍講座等特色ある講座を開催した。また、企業とのつながりを構築し、学び大学を通じて企業と市民の学びの場を展開することができた。	
		・令和4年度:22講座(受講者数288人) ・令和5年度:71講座(受講者数897人) 211%増	
課題等		オリジナル講座では、リピーターはいるものの、受講者は限定的になっていることから、より周知を強く広く行いながら、市民ニーズをとらえ、受講者数の掘り起こしを行う。また、大学・企業連携による講座内容の充実、市民の学びの場を構築していく。今後は、大館学び大学事業として、中央公民館を主軸にして、継続実施していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
学識経験者等意見	前年度に比べ、参加者数が大幅に増えている。多くの市民の方々が利用してくださった結果で、各講座の工夫が生かされている。今後も中央公民館を中心に行っていく方向でニーズを把握しながら、講座の内容を充実させていただきたい。また、情報の発信について、工夫していただきたい。		

重点施策点検・評価表

3-2-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	③ 高齢化社会に対応した生涯学習の充実		中央公民館
	活動内容	公民館サークル活動等の学習成果を生かす場の拡充や、高齢者の豊かな体験・知識・技術・特技を生かす場を充実させるため、子どもとの世代間交流も行う。中央公民館老壮大学102人全10回、各地区公民館高齢者学級開催(11館)。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		定年延長などにより、60歳代でも働いている人が増えているため、事業参加者の高齢化が進むとともに参加者数の減少がみられる。 健康寿命の向上や生き生きとした生活を過ごすための魅力ある講座の提供を考え、興味を引く内容の事業展開ができた。 特に城南小学校5年生66名が老壮大学の学習日に、よさこい2曲を披露し、老壮大学生の学ぶ意欲を向上させてくれた。 ○今年度実績 老壮大学 全10回学生102人(前年度全9回110人)ほか全地区公民館(11館)でも高齢者学級を実施 新春書初め交流会 11人(前年度25人)中央公民館 " 40人(前年度20人)比内公民館	
	課題等	近年は60歳を過ぎても就労している方が多くなっている。 今後は、そういう方たち向けに夜間や休日に事業を実施するなどの工夫が必要である。また、健康寿命を延ばし生き生きとした生活を過ごすための笑顔で楽しく学んでいく講座を考えていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	全てのニーズに対応することは難しいと思うが、これまで開催してきた書初め交流会なども大事にしながら、ニーズを的確に捉えた講座の開催など、魅力あるものとなるよう期待している。	

重点施策点検・評価表

3-2-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	④ 障害者のための生涯学習の推進		生涯学習課
	活動内容	比内支援学校及び障害者施設との連携により、障害者の生涯学習の機会を創出し、共生社会の実現に向け持続可能な活動の実践研究を行う。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	点検評価	文部科学省より事業3年目として受託し、生涯学習連携協議会を3回、生涯学習講座を5回、障害者にとって、自らが望む生涯学習活動や余暇の充実を図る活動を、合理的配慮を受けながら行える共生社会実現への実践研究を継続した。 成果として、①市民(支援者)においては心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的に行った。 ②就労施設などを訪問し、ニーズ調査を実施して今年度の講座企画へ反映させることができた。 ③なんでも発表会では市民文化会館のステージで自らの生涯学習の成果を発表し、たくさんの拍手をもらうことができたことが参加者の自信につながったと評価している。 講座全体の参加人数について、生涯学習講座は延べ193人が参加し、うち障害者は62人の参加であった。講座のほかに、比内公民館や栗盛記念図書館などで行った障害者の活動を広げる取り組みは、305人、ボランティア養成講座は、県及び障害者自立・差別解消支援協議会との連携を行い、80人が参加した。	
	課題等	課題としては、講座参加者同士のつながりの構築、社会教育施設における障害者が参加できる講座企画、講座情報の継続的発信。 また、サポートだけでなく、一緒に活動する体験を通じた障害理解の機会提供などがあげられる。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	合理的配慮を受けながら共生社会に向けて、非常に良い事業だと思う。 困難な状況もあると思うが、4年目に向けてさらに事業を展開していただきたい。また、比内支援学校以外にも障害者の就労施設があるので、そこを巻き込んで活動していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	① 学校支援活動事業の推進		生涯学習課
	活動内容	市内の全小中学校を対象に、学校で必要とする活動と地域住民の知識と経験をマッチングさせ、地域の方々のボランティア派遣や地域の教育力を学校教育へ活用する等、地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援する。 学校運営協議会の構成員又はCSディレクターの役割として、地域学校協働活動推進員が参画する。(R4年度は、25校中4校)	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校運営協議会の構成員として地域学校協働活動推進員が参画し、学校と地域の連携・協働を図った。(R5年度は、25校中23校) ①各校の特色ある授業・大館ふるさとキャリア教育の支援、クラブ活動やスキー教室等の学校行事における地域協力者のコーディネートによる教職員の負担軽減。 ②地域課題の解決に向けた活動として、児童・生徒による地域のクリーンアップ活動や防災活動、伝統芸能・郷土芸能の継承、福祉施設での活動など、さまざまな地域と学校の協働活動を推進した。 ③学校ホームページや学校報等により、児童・生徒の様子や地域協力者の活動状況を伝えることで地域協力者の意欲向上や新たな人材確保につなげた。	
	課題等	学校が抱える課題や地域と連携・協働して取り組むべき課題について、十分な情報共有と一体的な推進を図るため、学校運営協議会の構成委員として地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)が参画できるよう周知・啓発に努める。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	教育長から冒頭に話が合ったように、全小中学校が学校運営協議会を立ち上げているが、やっていくうちにいろいろ問題点が出てくると思われる。 ふるさとキャリア教育活動の蓄積したものが大館市にあるので、地域コーディネーターが参画しやすいように、周知・啓発に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	② 家庭教育の充実		生涯学習課
	活動内容	家庭教育推進事業の一環として、市内幼稚園、保育園、小中学校を対象に「子育て講座(40講座)」を開催する。また、「おしゃべりひろばひだまり」は家庭教育支援チームと連携し、子育て中の親を対象に育児の悩みや不安の解消を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	点検評価	○「おしゃべりひろばひだまり」 毎月1回、全12回全て開催。……参加者152人(託児含む) ○「子育て講座」 予定していた全40団体全て開催。前年度まで自粛していた親子できりたんぼ作りやお茶会等の食育講座が増加した。……参加者1,850人 ○「親育ち！家庭教育支援ネットワークづくり事業」 ・適応指導「おおとり教室」ふれあいお楽しみ会(餅つき体験、しめ飾り作り)……参加者28人、ボランティア4人 ・助産院イスキアの菅原光子先生による孫育て講座……計3回、参加者54人 ・学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会 「ひとりでできないことはみんなで ～地域の子どものために、誰と、どこで、何ができるか～」講師:NPO法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間恵美氏 ……参加者71人(オンライン参加含む) ・特別支援学級でのニュースポーツ等体験……計3回、参加者計26人 ・「Let'sGo! 木育ひろば」……計8回、参加者606人	
	課題等	特別支援学級での活動支援について、これまでは東中学校を対象に体験講座を開催していたが、他の中学校からも要望があったため、来年度は市内の小・中学校に対して開催について希望調査を行い、必要に応じて実施対象の拡大について検討したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	家庭教育の事業は、親の横の連携が大事なものになる。 未来の大館市民を育てていくという意味あい、いろいろな支援をしていくことで明るい未来が見えてくる。期待をしている。	

重点施策点検・評価表

3-3-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	③ 音楽療法士派遣事業		生涯学習課
	活動内容	継続事業として、市内幼稚園、保育園、小中学校からの派遣依頼を受け、自閉症気味な子や発達が気になる子、特別支援学級在籍児童に対し音楽療法を実施し、児童の情緒の安定を図る。全24回予定。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 派遣要請のあった市内の小中学校の特別支援学級や、気になる子を含めた保育園児を対象に20回の派遣を実施した。 先生と音楽療法士が協力することで、ドラムセットやDJセットなどさまざまな楽器を用意し、一緒に演奏や交流することを楽しみ、精神的な安定とコミュニケーション能力の向上に努めることができた。	
	課題等	上半期は学校の行事等で申し込み数が例年より少なかったが、下半期は児童・生徒からの要望などにより一気に申請数が増え、結果として予定回数となった。 児童生徒のリピート率が高く、今後も音楽療法士の派遣事業は継続していきたい。また、講師の負担を減らすため、開催時期が集中しないよう事業周知を早めに行うなど事務作業の調整をしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	毎年ニーズが高く、音楽療法士1人で頑張っている。 学校の事情で要請の時期が重ならないように事業の周知、事務作業の調整・予算を工夫していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	④ 青少年健全育成活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年健全育成推進方針を策定し、関係機関と連携を図りながらさまざまな活動を実施し、青少年健全育成に対する市民の意識高揚と青少年健全育成のための環境整備を図る。 (参集者目標:100人)	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校及び青少年関連団体・機関等による青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成推進方針の策定や情報共有・事業連携を図った。 また、7月2日に中央公民館を会場に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催し、Odate Marching Band TEDAOLE and 大館ジュニアバンドによるオープニング公演や、内閣総理大臣メッセージの伝達、秋田県教育庁北教育事務所社会教育主事による特別講話を実施し、青少年の非行・犯罪防止と社会を明るくする運動の啓発に努めた。 (参集者数165人)	
	課題等	中央公民館を会場とするため、密になりすぎない程度に人数を制限し、今後も7月第1土曜日に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	長年の歴史のある活動で、青少年関連団体の皆様には頭が下がる思いがある。 以前のように行進がなくても、青少年健全育成活動を充実させていただきたい。一時は参加者が少ない時もあったが、今後もアイデアを出し、啓発活動に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-5

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	⑤ 少年相談センターの活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年が抱える悩みや問題を解決するための相談活動や指導員による巡回活動のほか、関係機関・団体・学校等と連携したさまざまな活動を行うことにより、青少年の健全育成を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 青少年や保護者が抱えるさまざまな問題に対応できるよう、電話や面接による相談活動を実施するとともに、教育研究所、おおとり教室、子ども課等の青少年関連機関との連携を図りながら、問題解決に努めた。また、少年指導員28名により、市内全コンビニ店への子どもの見守り支援活動、神明社祭典に伴う各講練習時の巡回活動、卒業式の市内巡回活動、生徒指導主事協議会との合同巡視などを通して、青少年の健全育成に努めた。(少年指導員の年間活動延べ200人)	
	課題等	令和5年度の相談件数は、延べ413件となっており、過去最多件数を更新した。(令和5年度実績:322件) また、2人体制による相談センター業務であり、相談件数の増加に対応できるよう業務内容の見直しを図りたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	青少年の健全育成を陰で支えてくださっている。相談件数も増えており、2人の業務量を考えると、新たな手段を講ずる必要があるのではないかなと思う。 例えば2人、プラス・アルファなどで検討してはどうか。予算の関係もあると思うが、早急に対応するべきではないか。	

重点施策点検・評価表

3-3-6

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	⑥ 社会教育委員の活動の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習推進計画や社会教育推進計画等、社会教育推進のための基本方針や重点施策を策定し、教育委員会点検・評価に対する必要な意見・提言を行い、社会教育活動の推進を図る。また、学校訪問・研修会等の開催を周知し、40人以上(延べ)の参加を目指す。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) ○北教育事務所主催の学校訪問は9回(13校)、市教育研究所主催の授業見学は5回開催された。 北鹿地区社会教育委員研修会は、令和5年10月19日に北秋田市「ふれあいプラザコムコム」において開催された。本市からは阿部委員長ほか2人が参加し、他市町の社会教育関係委員と「地域とともに歩む社会教育の在り方」について意見交換を行った。 そのほか、当課主催の講座や研修会など計23回の案内に延べ54人が参加し、積極的に活動することができた。学校訪問では各委員から各校の取り組みへの意見、助言など学校を取り巻く環境の向上に対する熱意を伝えることができた。各種活動からの経験を生かし、社会教育・生涯学習の重点施策や事務事業の点検・評価について協議し、必要な提言を行っている。 令和3年度 訪問等 延べ参加人数 58人(16回) 令和4年度 訪問等 延べ参加人数 50人(18回) 令和5年度 訪問等 延べ参加人数 54人(23回) ○第8次大館市社会教育中期計画の改定に関わる会議は、計4回の会議を開催し、北教育事務所主任社会教育主事櫻庭直氏にアドバイザーとして参加していただき、各委員から積極的な意見が出され、中期計画に反映させることができた。	
	課題等	社会教育委員の活動を通して得たものを第8次大館市社会教育中期計画(令和6年3月改定)に反映させることができた。 今後は、ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に社会教育委員として関わり、市民版ふるさとキャリア教育の推進に向け、見える活動を展開することと、地区公民館訪問の再開が課題となっている。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に関わる社会教育委員としての活動を、今後も展開していただきたい。 生の現場を見ることによって、より社会教育委員として必要な活動ができるものと思われる。	

重点施策点検・評価表

3-4-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
4	高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する		担当課(館)
	① 高校生・青年層対象の生涯学習ボランティア養成講座の実施		中央公民館
	活動内容	高校生や若い世代に公民館活動の紹介と生涯学習ボランティア活動を体験してもらい、公民館の積極的な活用を促進する。「高校生まちづくり会議HACHI」の活動を継続して実施するとともに、今までの活動を継承しつつ、大学生の意見も取り込んでいけるような体制を整える。また、各公民館事業に中学生、高校生、大学生のボランティアを活用し、公民館活動に積極的に参加してもらう。(11館)	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☒ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 「HACHI」のメンバーは全15人。参加校は全て鳳鳴高校生となり、メインとなる「ハチウィン」を開催することができた。 きらきらフェスタへのボランティア参加、生涯学習フェスティバルでは、「児童との交流コーナー」を実施した。 今年の目標は、市内各高校からメンバーが集い、テーマを設けて自分たちにできることを考え活動することとし、月1回以上(延べ130人)の会議を行うことであった。しかし、テーマを設けずに「何をやりたいか」から始めたため、結果的に自分たちに何ができるかを明確にできないまま、学業や学校行事が忙しくなったため、今年度は活動回数が3回、延べ13人(前年度16回、延べ135人)となり、目標を下回る結果となった。	
	課題等	「HACHI」のメンバーは大館鳳鳴高校生のみのため、他の2校の生徒に呼び掛けはしたが、参加につなげることはできなかった。また、大学や大館青年会議所など外との連携を行い、未来づくりについて意見を出すなど幅を広げる活動へ支援していく必要がある。 肩のこらないメニューで参画してもらい、高校生が描く大館市の未来像を作ってもらうことも提案していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	思うような活動ができなかったようだが、これは、継続事業の課題でもあると思う。今年度は、新たなメニューでの活動が予定されているようなので、高校生が集う楽しい活動となることを期待している。また、地道に活動していれば、OB・OGも大館に戻って、街をよくしたいと考えるようになると思う。	

重点施策点検・評価表

3-5-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	① 「生涯学習フェスティバル」の実施		生涯学習課
	活動内容	社会教育施設・各種機関・団体等に協賛・参加を呼びかけ、生涯学習に関する実践活動の発表の場や理解する機会を提供し、市民一人一人の生涯学習への意欲を高める。メイン開催日(2日間)の会場となる中央公民館の来場者数目標を2,000人とする。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☒ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 9月、10月を生涯学習推進月間として、栗盛記念図書館、ほくしか鹿鳴ホール、北地区コミュニティセンターなど、各機関、団体等による協賛イベントが開催された。延べ参加・入場者数は6,147人。 9月24日、25日の中央公民館会場では、新型コロナウイルス感染症対策のためサークル協議会による食堂開設は見送ったが、おおむね通常どおり開催することができた。 木育キャラバンをはじめ、中央公民館サークル協議会、大館市発明協会、教育研究所等による作品展示のほか、大館桂桜高等学校生徒によるものづくり体験など、生涯学習の周知と実践活動発表の機会とした。 当日はスポーツ関係のイベントと重なったことから、2日間の来場者実績では1,722人となり目標値をやや下回ったものの、強調月間である9月、10月の延べ参加・入場者数は6,000人を超え、一定の成果が見られた。	
	課題等	今後は、サークル協議会の食堂開設も含めた通常開催を検討していく。また、行事・イベントが重複しないよう庁内や関係団体などと調整し開催する。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	目標値としての参加人数だけでなく、参加してくださった方が楽しめるような、あるいは満足できるようなイベントとなればよいのではと思う。また、食堂の開設は、いろいろ課題もあると思うが、ぜひ検討していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-5-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	② 「大学公開講座」、「大学校市民講座」の開催の実施		生涯学習課
	活動内容	市民の高度化・多様化した学習要望に応えるとともに、高等教育機関に対する理解を深めるためにそれぞれの特徴を活かした市民の公開講座を各年2回開催する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、7月4日から6日までの3日間で開催し、倫理、助産師の歴史、看護と介護の連携をテーマにした講義を実施した。受講者数は延べ88人。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開市民講座」は、生涯学習強調月間である10月中に3回開催し、3Dモデリング、かんなの使い方、マイコンプログラミングをテーマに講義を実施した。受講者数は延べ33人。	
課題等	秋田看護福祉大学の「大学公開講座」について、今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、4年ぶりに大学構内に戻して開催することができた。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開講座」は、大学校の特色・専門分野を生かした講座となっており、実際の参加者からは大変好評であるものの、テーマによっては難しい内容の講座と思われやすいため、参加しやすい募集・PRとなるよう検討していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見	秋田看護福祉大学、秋田職業能力開発短期大学校の特色ある講座は、テーマの選択が大変難しいと思われるが、今日的課題などを工夫して事業展開していただきたい。		

重点施策点検・評価表

3-5-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	③ 地区住民や関係団体との連携強化		中央公民館
	活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 地区公民館では、運動会やスポーツ大会、文化祭などの行事を地元町内会や婦人会などと協力して行っているほか、他事業にも地域の団体の意見を反映させている。 また、消防署や警察署、危機管理課の出前講座を活用した防災、防犯講座に地域ぐるみで取り組むなどして、関係機関とも連携を図っている。 今年度は、8月に大館市総合防災訓練が真中公民館を主会場に行われた。公民館利用者や学校、町内会などと共催で避難訓練を実施している。	
	課題等	公民館は地域コミュニティーの拠点であり、地域活動の支援はもちろんのこと、災害時の避難所として位置付けられている。少ない職員数で避難所として機能するためには、地域住民との連携は欠くことができない。 今後もより良い協力関係を築くよう努力し、有事における地区災害対策本部としての役割を想定した訓練を実施していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
学識経験者等意見	いつ起こるかわからない災害に対応するためには、訓練は必要不可欠なものであるが、地区の公民館などでは限られた職員数で対応しなければならないことを考えると、有事の際だけでなく、日頃からいろいろな面で地域住民がサポートできる体制を構築していくことが必要になってくると思われる。今後もより良い協力関係をもって活動してほしい。		

重点施策点検・評価表

3-5-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	④ 地域コミュニティづくりに向けた支援体制の強化		中央公民館
	活動内容	地域のコミュニティ活動の拠点となっている、地区公民館及び分館等の修繕等施設整備を進めていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		釈迦内公民館と花岡公民館の大規模改修が実施された。 今後も地元の意見・要望を聞きながら、年次計画を組んでストーブ、AEDなど備品の更新を進めていく。	
課題等	地区公民館分館は30施設あるが、老朽化した施設が多く計画的に整備しても長期に渡ることから、その間に突発的な修繕が多々発生する。また、建物以外でも暖房機器の老朽化が進み、故障の都度修繕で対応しているが、計画的に更新する必要がある。 地区住民の生涯学習の拠点として機能するため、限りある財源の中で優先順位を適切に判断し、予算確保の努力を継続する。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見	施設の老朽化が進んで突発的な修繕もあると思うが、避難所になっていることを考えると、根気強く予算の確保に努めてほしい。修繕等についても施設が多いため、一度にはできないと思うが、住民や利用者の要望を聞きながら優先順位を決めて進めていってほしい。		

重点施策点検・評価表

3-5-5

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑤ 公民館事業の充実と参加促進		中央公民館
	活動内容	公民館の各種事業の内容を充実させ、魅力ある講座を開催する。さらに参加者の動向を見ながらレベルアップを図ることで、活発な公民館活動を展開する。また、既存の事業で参加者の少ない事業でも楽しみに来ている高齢者がいるため、存続できるようにしていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 各事業の実施後、参加者から事業内容に関する意見や要望などアンケートを取り集約している。地区公民館では町内会や関係団体との会合等で常に意見要望を出してもらい、今後の事業に反映するように努めている。 今年度、二井田公民館が「文部科学省の第76回優良公民館表彰」を受賞した。これまで、二井田三大魅力と銘打って「安藤昌益」「忠犬ハチ公の生誕地」「錦神社の歴史」など、地域素材を活かし、地域住民に二井田地区の歴史、文化、先人といった地域の歴史を知ることによって地域を誇れる素地を醸成する活動や防災訓練も地域と一緒に活動したことが評価されたものである。 また、二井田公民館が幹事を努め、矢立・花岡・下川沿・真中・比内の5館が協力して開催した「サタデーナイト公民館ディスコ」は、60人を超える地元住民らが参加し、大成功であった。	
	課題等	地域住民のニーズを把握しながら事業の見直し・改善を進める必要がある。そのため、必要に応じてNPO団体や県・市の出前講座、企業のCRS活動(社会貢献)を活用して事業を充実させる。また、他市町村を参考にしたり、複数の公民館共同による事業をさらに進め、地域を超えた新たな人間関係を形成したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	地区公民館が連携した事業など工夫された事業展開がされていると感じる。デジタルだけでなく新聞や広報等活字を利用した募集も大切なことだと思う。事業にも動きがみられていて、いい方向に進んでいると感じている。若者も気軽に立ち寄れる公民館となるような公民館事業を進めてほしい。	

重点施策点検・評価表

3-5-6

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
⑥ 放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室推進事業並びにわくわく土曜教室推進事業の実施		生涯学習課	
活動内容		放課後の児童が「安全・安心」を第一に充実した放課後を過ごせる場を提供する。さらに、土曜日等の支援として体験活動や学習機会を提供する。各施設の児童を交流を図るために、カルタ大会等の交流事業を年2回行う。定例会開催は月1回行う。	
点検評価		☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 昨年度感染症の影響により自粛していたクラブでの季節の行事やイベントを再開し、児童に対して放課後及び土曜日等の体験活動を提供することができた。 交流事業としては、昨年度中止となった直営全体でのドッジボール大会を再開したほか、カルタ大会については中央公民館で開催したクラブ対抗の本選において、保護者の観覧を4年ぶりに再開することで、クラブ間での交流の場、親子のコミュニケーションのきっかけ作りに寄与することができた。 定例会は毎月1回開催し、定例会終了後に研修会を2回、各クラブの情報交換会を3回開催した。 令和6年4月から義務化される「児童仲良クラブ安全計画」の策定と、日々の安全計画の土台となるマニュアルを策定することができた。	
課題等		交流事業においてはクラブ間で参加できる児童数の差が大きくなっており、全ての施設の児童が参加しやすい内容について各クラブと協議し改善を図っていきたい。	取組の方向性
国の新・放課後子ども総合プランによる高学年児童の受入れについては、施設設備や面積要件、三密を避ける対策等クリアすべき事案を整理しつつ、児童数の減少とも結びつけながら図っていく必要がある。また、放課後児童クラブでの事故防止と事故発生時の対応として、3月末に安全管理計画策定の予定で、今後は安心安全な放課後児童の居場所作りと保護者への周知を行う。また、支援員の研修の場の充実を図ることが求められている。			
学識経験者等意見		放課後児童クラブは、親にとっては頼りにしている施設であるため、クラブ間の交流や体験活動など充実させていただきたい。また、児童仲良しクラブ安全計画の作成は、より安全安心な放課後児童の居場所作りのため、必要な計画である。	
		今後は、支援員の資質の向上などの充実を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-5-7

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑦ 「大館ふるさとカルタ」の普及とカルタ大会の開催		生涯学習課
	活動内容	カルタの普及を目的に、カルタ大会を開催する。また、カルタを通して、ふるさとの歴史を学び、郷土愛を育む機会を作る。カルタ大会の運営に高校生ボランティア(目標5人)を募り、児童との交流と審判・読み手の育成を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度で4回目の開催となったカルタ大会では、市直営の放課後児童クラブ全9クラブから予選を勝ち抜いた児童が参加し、中央公民館で本選を行った。事前に各クラブで行った予選や本選のための練習では、読み札を暗記した児童が読み手を務めた。 本選では審判や読み手として、高校生6人にボランティアとして協力いただいた。また、昨年度まで中止していた保護者の観覧を再開し、試合後に自由に試合ができる場を開放したことで児童は家族や兄弟姉妹とカルタを楽しみ、保護者にもふるさとカルタに興味を持っていただいた。 大会終了後の各クラブでは、予選や本選実施後に行った報告会の影響により、本選に参加していない児童や高学年生も大館ふるさとカルタに関心を持ちクラブの自由時間に遊ぶ姿もみられ、普及の一助を担えたものと考えます。	
	課題等	一部のクラブで加入児童数や参加希望者数の減少などの理由により、不参加となった学年や、2クラブ合同チームで参加した学年があった。カルタ大会を今後も継続して開催していくとともに、大会の時期だけではなく、児童クラブにおいて日頃から大館ふるさとカルタに親しめるよう新たな取り組みを見い出した。また、学校で作ったカルタの活用も図りたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさと教育に触れる良い機会である。 高校生ボランティアが参加していくことで、読み手や審判を行い、普及促進につながるようになったのではないかと。また、保護者も子どもたちと一緒にカルタを楽しんでいたことは、親子の交流にもつながり、大変良い取り組みである。	

重点施策点検・評価表

3-5-8

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑧ 木育事業の実施		生涯学習課
	活動内容	移動型木育ひろばを展開する。市民交流センターの木育空間を利用した乳幼児から高齢者までの世代間交流の機会創出を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 前年度に引き続き、移動型木育ひろば「Let'sGo! 木育ひろば」を介護老人保健施設、児童センター、秋田犬の里などで計8回実施し、幼児から高齢者まで延べ606人が木のおもちゃに触れながら楽しい時間を過ごした。 今年度で5回目となった移動型おもちゃ美術館「木育キャラバン」については、2日間で延べ1,722人の来場があり、多くの子育て中の親子が全国各地の選りすぐりの木のおもちゃと出会い、木の感触や香りを感じながら楽しい時間を過ごし、自然環境の保全や木材の良さを学ぶことができた。 また、開催にあたり市内の木育インストラクター23人、高校生11人にもボランティアとして協力いただき、世代間交流の場にもなった。	
	課題等	より多くの市民が木に触れる機会を創出するため、木育イベントやワークショップを開催し、木の良さや自然環境の保全を周知していく。 秋田杉をはじめとする市内及び県内の木や自然についても、木育インストラクターによるお話やイベントを通して周知していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	幼児から高齢者までの交流の場を通じて、おもちゃに触れあいながら木の良さや自然環境の保全を周知していくことは、非常に広がりを感じられる事業である。 木育インストラクターを活用し、事業の充実を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-6-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
6	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		担当課(館)
	① 図書館運営に関する進行管理		生涯学習課
	活動内容	指定管理者の提案書に基づく適正な運営への必要な支援と指導を行うと共に、第四期市読書推進計画を指定管理者と共有し、図書館サービスの向上を図り「生涯読書」活動を推進する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 指定管理者による令和5年度事業計画と数値目標を提出してもらい、計画的な図書館及び松下村塾の利用促進と読書の啓発活動に努めている。 利用促進としては、コースや絵本のガチャガチャ等の新たな催し物を加えた図書館まつりの開催のほか、絵画や絵手紙等の展示会、吉田松陰と松下村塾を題材とした資料展や松陰神社(山口県萩市)宮司を招いての講演会など、さまざまなイベントを開催している。 また、読書啓発活動としては、今年で54回目となる大館市読書感想文コンクールを開催や本を借りてビンゴゲームをする「図書館でビンゴ」、読書の幅を広げる「本のおたのしみ福袋」など、工夫を凝らした読書啓発活動に努めている。 (来館者数:目標130,500人、実績見込136,260人) (貸出冊数:目標200,000冊、実績見込197,714冊)	
	課題等	人口減少や社会情勢の変化を踏まえながら、図書館等の利用促進や読書の啓発活動として読書環境の整備や情報発信を充実させ、さらに魅力ある市民に親しまれる図書館運営ができるよう、指定管理者と十分協議しながら支援していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	吉田松陰や松下村塾を題材とした講演会、ビンゴゲームを活用したイベントなど特色ある内容で工夫している。 先日、花矢図書館が貸し出しに工夫している様子がテレビで紹介されていたが、ますます市民に親しまれる図書館を目指し、指定管理者側とも連携し、図書館を運営していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-7-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		担当課(館)
	① 芸術文化鑑賞の機会の提供		生涯学習課
	活動内容	指定管理者との連携により、ほくしか鹿鳴ホール自主事業及びさらなる鑑賞機会の充実を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 指定管理者による令和5年度事業計画を提出してもらい、計画的な自主事業等の開催と施設の維持管理により施設利用の促進に努めている。 大館ジュニアコーラスやヴァイオリンクラブなどの次世代の担い手育成事業のほか、市民参加型のピアノマラソンの開催や和太鼓集団DRUM TAOによる新作公演など良質な鑑賞機会の提供など、芸術文化の振興に努めている。 (来館者数:R4年度61,714人、R5実績64,990人)	
	課題等	ほくしか鹿鳴ホールも建築から40年以上が経過し、改修等を行いながらも年々経年劣化が目立ってきている状況だが、今後も市民と共に楽しみ・喜び合える文化事業の実施や多彩で魅力ある集客力のあるイベントを開催し、文化芸術活動の継続・発展に努めていく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	施設が老朽化しているのは承知しているが、大館市では唯一の施設であるため、維持管理についても予算面の制約があると思うが、課題をクリアして施設の充実、維持管理に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-7-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		担当課(館)
	② 芸術文化に対する事業の積極的な周知・活用		生涯学習課
	活動内容	文化庁等が所管する各種事業の情報を学校、文化施設、関係団体へ積極的に周知、活用することにより、地域における芸術文化体験の機会を提供する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	課題等	市内芸術文化連盟・協会等に対する秋田県芸術文化振興基金やニッセイ財団等による助成事業の周知のほか、小中学校には子どもたちが質の高い芸術活動を身近に感じられる機会として文化庁「文化芸術による子どもの育成事業(巡回公演事業・芸術家の派遣事業)」 「子どものための文化芸術鑑賞・体験支援事業」等の周知や取りまとめを行った。 令和5年度は3校の申請があったが、2校の実績となった。 文化庁より6年目となる「伝統文化親子教室事業」を受託し、今年度は着付けと生け花体験、秋田犬の歴史講座及び特性講座、囲碁講座、和菓子作りと茶道体験、アメ作り体験講座を実施し、参加者は154人であった。 「秋田犬の歴史及び特性体験講座」では、渋谷区の子どもたちも一緒に参加し、秋田犬について学び理解を深めるとともに秋田犬絵画展につながる講座となり、市内や渋谷区からも多数の応募があった。 通常の生活ではなかなか体験することができない、さまざまな伝統文化に触れることができる「直接体験」の機会を子どもたちに提供し、子どもたちの創造力、探求心、表現力を磨き、豊かな人間性を育む事業となった。	
	学識経験者等意見	日常ではあまり体験できない機会を提供し、子どもたちの豊かな人間性を育み、伝統文化の継承につながったことは非常に大切なことである。今後も、地域で活躍する「未来大館市民」の育成を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

4-1-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する		担当課(館)
	① 企画(特別)展の開催とホームページを活用した効果的な情報発信		歴史文化課
	活動内容	大館の歴史や自然及び文化財等について、市民の関心を高めてもらえるように企画展を開催し、ホームページやフェイスブック、ツイッター等のツールを活用してリアルタイムに情報発信していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 新型コロナウイルス感染症が5月から5類感染症に移行したことで、人々の移動に制限がなくなり歴史文化課所管施設への来館者数の回復が見込まれる中、郷土博物館や鳥潟会館などの施設情報・天然記念物・イベントなどをお知らせするホームページの更新やフェイスブックなどを積極的に活用し、情報発信を行った。 イベントについては、6月10日「鳥潟右一没後100年記念講演会」の開催にあたり、世界初の実用的な無線電話方式である「TYK式無線電話機」を発明した博士の功績などについて、ホームページや新聞等で情報発信し、参加を呼び掛けた。また、長走風穴館のYouTube動画やニホンザリガニの動画もリアルタイムで発信した。 郷土博物館の企画展は、郷土の画家を含む芸術家の絵画や陶芸品などの作品展を開催し、市内外から多くの方にご来館いただいた。今後もニーズに合わせて企画していきたい。	
	課題等	新型コロナ感染症の5類移行により、人々の移動が戻ってきている。 各施設への見学の機会を増やすため、地元新聞やホームページ、フェイスブック等のSNSによりタイムリーにPRし、幅広く情報発信に努める。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	情報発信がたくさんあり、新聞でも目にする機会が多くなったと思う。興味や関心が高い人が日本全国、世界中にいると思う。効果が見えてきている。さらに充実させてほしい。 ただ、ニーズが多くなるとその対応が大変になる。うれしい悲鳴だと思うが頑張ってもらいたい。期待している。	

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する		担当課(館)
	② 博物館講座等の開催		歴史文化課
	活動内容	北鹿地域の文化財や歴史、自然などについて、関係市町村と連携して博物館講座等を開催する。また、大館郷土博物館において、発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と協力・連携して、ニーズに合わせた学びの機会を提供していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 市の歴史や自然などについての出前講座を10件実施した。 子どもたちの知的探求心を刺激し、科学に関心を持つきっかけを提供するための科学教室「わくわくサイエンス」は、8回実施した。 5年度の講座は、6月に「鳥潟右一博士没後100周年記念講演会」を会場とオンラインで開催し、多くの方々に偉人の業績を知ってもらうことができた。また、2月は「おおだて博物館講座」を開催した。はじめに県立博物館の職員から北鹿地方に関係のある「黒鉾鉾床」についての講演を行い、続いて当博物館職員や地元高校生物、歴史団体の方が発表し、多岐にわたる内容について学習していただいた。 特別展・イベント等は、「大館佐竹家資料お披露目展」、「昭和・平成ロマン派美術『油絵から陶芸まで』」や「縄文土器展」、「おひなさま展」を4回開催した。 また、大館の自然や歴史、文化などに関する研究紀要「火内」を発行した。	
	課題等	北鹿地域の市町村にある自然や歴史、文化財などについて、その魅力を広く発信するために、連携して博物館講座等をオンラインでの視聴も検討して開催していきたい。 また、市民を対象にした自然や歴史、文化財などについて、各種講座を開催し情報発信して、学びの機会を提供していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	具体的なものがあり、趣向を凝らしてやっている印象がある。知的好奇心や探求心を刺激し、子どももワクワク、大人もワクワクというものが形として出てきていると思う。 反響が大きくなるとその対応が大変になると思うが、見える形になってきている。ぜひ北鹿市町村との連携が形になることを期待している。	

重点施策点検・評価表

4-2-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
2	郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する		担当課(館)
	① 大館市郷土芸能保存協会、大館市文化財保護協会と連携した事業の推進		歴史文化課
	活動内容	大館市郷土芸能保存協会に加盟する団体の郷土芸能の記録保存や継承、公開の機会を支援する。また、市内に存在する文化財の公開や保護活動などを行っている大館市文化財保護協会の事業を支援する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 大館市郷土芸能保存協会加盟団体は、きりたんぼまつりやアメッコ市などのイベントで、獅子踊りなどの郷土芸能を市民に披露した。 大館市文化財保護協会との共催による文化財展覧会は、10月7日から9日までの3日間、中央公民館で開催した。今回は第51回目で「史料・絵図・写真による大館の歴史」をテーマに絵図や史料を展示したほか、江戸～昭和期の書画や江戸時代の刀剣などを展示し、市民の関心を高めることができた。また、伝統文化親子教室での伝統芸能の体験発表も行うことができた。 また、県の主催による「新・秋田の行事in大館」が11月にニプロハチ公ドームで開催され、下川沿中学校生徒による川口獅子踊りが披露された。	
	課題等	大館市郷土芸能保存協会は、高齢化や後継者不足などにより活動を継続していくことが難しい状況となっている。 地域の郷土芸能を継承していくため、小中学校等での活動の支援を継続していく必要がある。また、郷土芸能の記録保存について検討する段階にあると思われる。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	外から見ていると郷土芸能の発表などが、よくやられていると感じる。その裏には各団体の努力があつての事だと思う。 少子化などのさまざまな課題がある中で、後継者については難しいと思うが、活動支援を続けるとともに、記録の保存に知恵を絞っていただき、丁寧に保存して後世に伝えてほしい。	

重点施策点検・評価表

4-3-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課(館)
	① ニホンザリガニの生息地再生と増殖		歴史文化課
	活動内容	天然記念物「ザリガニ生息地」の再生を目指す増殖事業が令和5年度で7年目を迎える。ニホンザリガニの増殖技術の確立に向けて、専門家など関係者との連携を図り情報交換をしていく。第1人工生息地においては、生息個体数が安定化してきており、これを維持していけるように、生息環境を適切に管理しモニタリングを行っていく。 また第2人工生息地の造成事業は令和5年度が2か年目となり、計画的に整備していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 天然記念物を保存する気運を醸成するため、大館郷土博物館と男鹿水族館での飼育展示を継続し、教育普及に努めた。 令和元年度に整備した第1人工生息地のモニタリング調査を業者に委託してきたところ、令和5年度から大館鳳鳴高校生物部に調査協力してもらった。4年続けて30匹以上の生息が確認されており、個体が定着していると考えられる。また、柵の周囲に植えた草木も順調に繁茂しており、生息環境として整ってきている。 一方、第2人工生息地の令和5年度分の造成工事の入札不調が続き実施できなかったため、文化庁と協議して翌年度への繰越事業となった。最終的に請負業者が決まり、6年の8月末を工期として契約することができた。	
	課題等	第1人工生息地でニホンザリガニの生育が安定してきているが、博物館内での水槽飼育による増殖技術がまだ確立されていないため、引き続き専門家の助言や協力を得ながら研究していく。 第1人工生息地のモニタリングを継続し、ザリガニが安定して生息できるよう環境を維持していく必要がある。 また、第2人工生息地の整備については、令和5年度の繰越工事分を計画的に進めたのち、令和6年度に計画している造成工事にスムーズに移行できるよう適切に監理していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	頭の下がる地道な活動だと思う。自然が相手であり、ましてや天然記念物に関わっている。なかなかゴールは見えないと思うが、地道な取り組みと積み重ねがいずれ花開くだろうと願っている。 市民への情報発信について、お知らせできる部分とできない部分があり難しいと思うが、頑張してほしい。	

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課(館)
	② 市内遺跡発掘調査及び記録・出土品整理		歴史文化課
	活動内容	大館城跡の内、旧庁舎跡地の発掘作業が最終年度となる。大館城跡全体の発掘調査記録の刊行に向けて、出土品の整理・記録・保存を行っていく。また、市内の官民の開発事業や住宅建築等に係る発掘調査及び試掘・確認調査を、相手方の理解を得て連携して適時対応していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		新庁舎建設事業に伴う令和5年度の現場発掘作業は、4月から7月にかけて旧庁舎建物跡地で完了した。足掛け3年におよぶ旧庁舎跡地の発掘調査により、かつての外堀跡や柱穴、井戸などが確認されたほか、陶磁器や木簡などのおよそ10,000点以上の遺物が出土した。 発掘調査報告書の刊行に向けて、これら出土品の整理・記録・保存を行った。 また、この大館城跡発掘調査結果について、出前講座の依頼があり、担当者が講座で説明し、関心を高めることができた。 官民の開発事業に伴う、遺跡の詳細分布を確認するための発掘等調査は、個人住宅建設に伴う発掘調査が1件、県営圃場整備事業や個人住宅・店舗等の建設に伴う試掘・確認調査を12件実施した。	
	課題等	令和5年度までで完了した新庁舎建設事業に伴う発掘作業で確認できた遺構や出土品などについて、発掘調査報告書の刊行に向けて、その調査記録や出土品の整理・記録・保存を着実に実施していく。 大館城の歴史や埋蔵文化財への興味・関心を高めていくため、発掘調査の成果についての資料展示や講座等を開催していきたい。 また、市内の開発事業等に伴う発掘調査についても、理解を得ながら進めていく。	取組の方向性
			☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	地道な活動で頭が下がる。専門性が必要なので、誰でもいいというわけにはいかない。保存していくのも大変な労力だと思う。これから整理、記録、報告書作成に向かうが、これがスタートのようにも感じる。 莫大な作業量だと思う。市民への理解を深めるため頑張ってもらいたい、無理をしないようにしてほしい。	

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課(館)
	③ 鳥潟会館庭園の国指定を目指す取り組み		歴史文化課
	活動内容	鳥潟会館の庭園について、令和4年度末に、4か年にわたって取り組んだ文化庁の名勝調査事業により「鳥潟会館庭園名勝地調査報告書」を刊行した。令和5年度はこの報告書をもとに国の名勝指定を目指して、文化庁に申請手続きを進めていく。また母屋については重要文化財の指定を目指して取り組みを始める。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	課題等	令和4年度末に完成した「鳥潟会館庭園名勝地調査報告書」を基に、国の名勝指定を目指して庭園の文化的価値を著わし、図面等の求められている様式を取りまとめて、県とともに12月下旬に文化庁とヒアリングを行った。 ヒアリングによる修正箇所を整えて、2月上旬の締め切りまでに意見具申書の最終版を提出することができた。 また、並行して母屋の重要文化財指定を目指すため、国内の重要文化財指定に向けた調査報告書作成に実績のある事業者について情報収集を図った。	
	学識経験者等意見	これまでの努力が報われることを祈っている。パッと花開くことを期待して待ちたいと思う。名勝指定が決まれば市民の関心も高まる。今後もよろしくお願いしたい。	
		取組の方向性	☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度

重点施策点検・評価表

4-4-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
4	歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める		担当課(館)
	① 歴史的風致維持向上計画の事業に取り組む民間組織への支援		歴史文化課
	活動内容	文化遺産活用まちづくり実行委員会が文化庁の地域文化財総合活用推進事業を活用して作成した大館神明社例祭余興奉納行事のPR動画や大館ばやし教則DVD、情報発信のためのホームページなどのほか、ヘリテージマネージャー育成事業による人材育成などの成果を活用し、郷土の伝統芸能の継承と後継者の育成に、関係課と連携して取り組んでいく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 文化庁の補助による文化遺産活用まちづくり実行委員会の事業が令和4年度で終了し、5年度は実行委員会の加盟団体が、それぞれ補助事業の成果品を活用したPR事業などを展開した。 大館神明社例祭では、各町内でお囃子や踊りを継承し、コロナ禍前の通常の様で開催することができた。 建築士会によるヘリテージマネージャーの講演会は、事務局担当会社が通常業務多忙のため準備ができず、開催できなかった。	
	課題等	伝統芸能組織の後継者が減少しており、文化遺産活用まちづくり実行委員会への新規加入には至らなかった。 今後も伝統芸能の継承と維持保存に向けて、関係団体と取り組んでいく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	いろいろな問題を含んだ難しい課題だと思うが、祭りのPR動画やお囃子のDVDなどは効果的に機能していると感じる。そういったものを起爆剤として、大館に関係する人以外も掘り起こして進めていただきたい。また、活動の記録保存が必要だと思う。先進事例などを参考とし活用しながら手を打っていただきたい。	